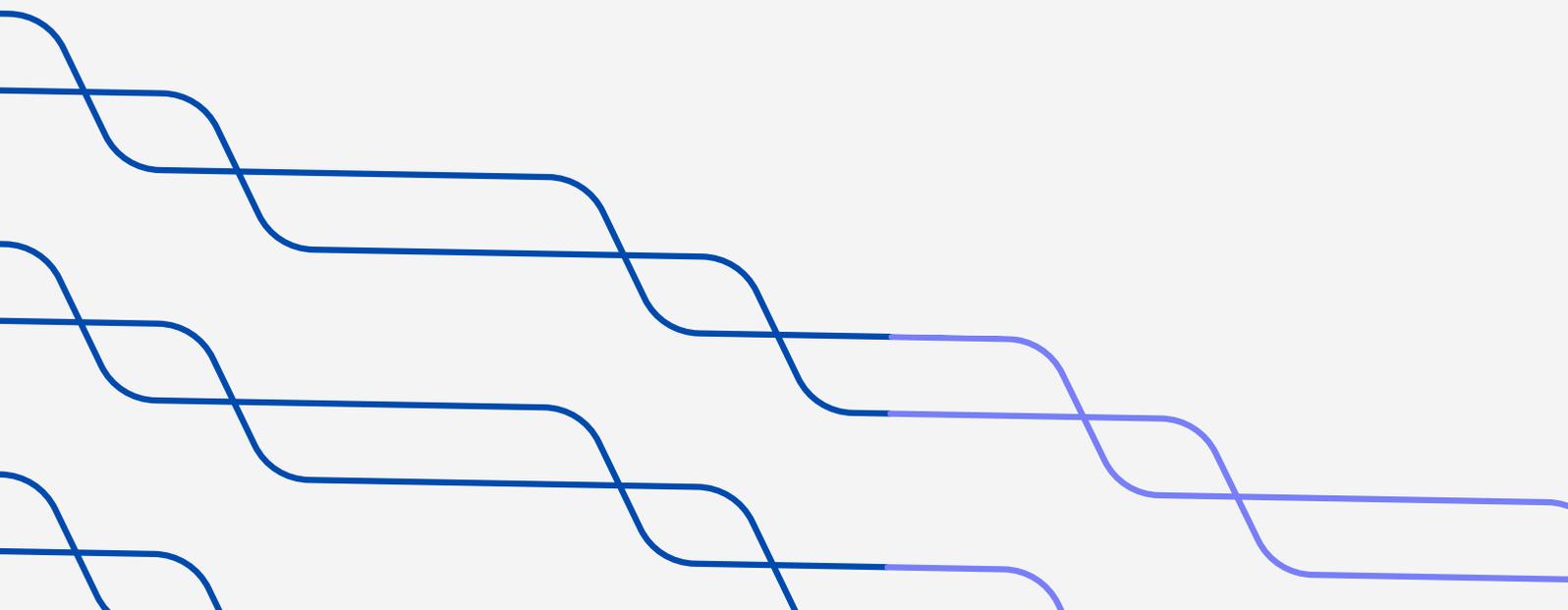


学校法人 八代学院

中期計画

2022→2026

2022.4.1



INDEX

学校法人八代学院 中期計画策定にあたって

- 2 理事長メッセージ
学校法人八代学院八代学院理事長 八代 智
- 3 学校法人八代学院の理念
- 4 学長メッセージ
神戸国際大学学長 辻 正次
- 5 校長メッセージ
神戸国際大学附属高等学校校長 杉之内 裕

学校法人八代学院 中期計画

- 6 1.組織・運営
- 7 2.財務計画
- 8 3.施設設備計画

神戸国際大学 第2次中期計画

- 10 4.教育
- 12 5.研究
- 13 6.学生支援
- 14 7.国際交流
- 15 8.地域連携
- 16 9.学生受入

神戸国際大学附属高等学校 中期計画

- 18 10.神戸国際大学附属高等学校
中期計画



2022/04/01

学校法人八代学院中期計画策定と推進に向けて

学校法人八代学院では、大学及び附属高等学校の競争力の強化と基盤の確立のために2022年から始まる5年間（2022年度～2026年度）の中期計画を策定しました。複雑で変動の激しい社会を生き抜くために、法人挙げて全力でこの中期計画を推進します。

中期計画では数値目標や評価指標をより具体的に示し、これらを各年度の事業計画や予算編成に連動させることで本学院の発展に一層効果的なものとしします。

この中期計画は、大学及び附属高等学校の今後の成長戦略を描き、さらに進化するためのツールであり、役員から教職員に至るまで一貫して共有されるマイルストーンにもなります。中期計画の着実な履行を通して、教育・研究・社会貢献そしてグローバル化を一層加速し、これまで培ってきた本学院の歴史と伝統を受け継ぎ、更なる発展に向かって教職員一人ひとりが、ここに掲げる達成目標を共有し、ビジョンを実現していくためのものです。

私たちは一致協力のもと、本学院全ての構成員の責任と英知で厳しい環境を乗り越えていかなければなりません。本学院が建学の精神を教育の中心に据え、将来を見据えて地域社会に評価される教育機関として発展し続けるために、引き続き皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

学校法人 八代学院

理事長 八代 智



学校法人八代学院の理念

「神を畏れ、人を恐れず、人に仕えよ」

学校法人八代学院（以下、本学院という）の創立者八代斌助師はキリスト教の精神に基づき、「神を畏れ、人を恐れず、人に仕えよ」を建学の精神として掲げています。

最初の「神を畏れ」とは、神を恐怖すべきものとしてではなく、畏れ尊ぶべきものであることを示しており、真理・真実に対する謙虚さをあらわしています。

次の「人を恐れず」とは、人間は神によって平等につくられた存在であるから、誰をも恐れることなく誰にもへつらうことなく、平等に交際することが大切であるという意味である。いかなる権力者に対しても、また相手の数が多くても、恐れることなく立ち向かっていかなければ何事もなし得ることはできません。平等を基盤とする国境をこえた同胞・兄弟意識をあらわしています。

最後の「人に仕えよ」とは、打算的利己主義からでなく、相手のためにという“愛”を動機として行うものでなければならないという意味です。『新約聖書』の「ルカによる福音書」第22章26節によると、主イエス・キリストは「あなたがたの中でいちばん偉い人は、いちばん若い者ようになり、上に立つ人は、仕える者ようになりなさい」（新共同訳）と言われ、隣人への愛に生きる人間となるよう求めました。

このような意味を持つ建学の精神は、キリスト教主義を基本的視点とした全人格教育を行おうとする本学院のバックボーンです。また、急速に社会のグローバル化が進展する一方、物質的豊かさの増大に反比例するかのようになり精神的貧しさが深刻化している状況の中で、この建学の精神の持つ意味がますます重要になってきています。本学院はこの建学の精神を基本理念とし、国際性と良識を備えた有為な人材を育成することを目標にしています。

学校法人八代学院の使命

21世紀に入り、その四半期を迎えようとしています。世界は一段と激しく変容している。国と国を隔てる「国境」というハードルはどんどん低くなり、経済では「連携」、政治では「統合」、暮らしや環境では「共生」という言葉に象徴されるように、言葉や文化の違いを乗り越えて共に手を携えて歩んでいく社会へと移行しつつあるその一方で、それを打ち破ろうとするかのようになり強大国によって地政学的リスクが高まっています。

こうした激動の時代に求められるのは、専門的知識をふりかざす人間ではなく、グローバルな視野と柔軟な感性を備え、様々な変化に対応し、創造的に行動できる人材です。地域や社会、人々とのふれあいや出会いを通して自らが課題を発見し、主体的にアクションを起こす力を持った人間が必要とされます。このような状況を踏まえて、人間主義的立場を基本とした全人格教育を行い、国際社会に通用する人材を育成することを本学院の使命としています。

「一人ひとりに寄り添い育む、生き抜く力」

～神戸国際大学第2次中期計画の策定にあたって～

新型コロナウイルスの感染流行は3年目に入り、2022年度中にコロナ禍は終息しないとしても、今後世界は「Afterコロナ」のフェーズへ移行すると思われます。そういった社会情勢の中での本学のミッションは、混とんとする現代を「生き抜く力」を持った人材の育成であると考えております。そのために本学では①専門教育の重視②初年次教育の充実③時代に即応する教育④キャリア教育の4点を重視した教育と、大学は人と人とを結びつける場であるとの観点からの充実した学生支援を実践いたします。

教育の観点では、「大学は何を教えるべきか」から「学生が何を学び、何を身に付けることができたのか」へ大学教育のあり方を転換するため、体系だったカリキュラム全体の構成の中で学生の知的習熟度を考慮し、学生の意欲を引き出し、密度の濃い主体的な学修ができるような体制を構築します。さらに教育以外の分野においても、全教職員が学生に寄り添うことを心掛け、キャンパスが学生にとっての居場所・心のよりどころとなるための体制を整え、満足度の高い環境を創出することに努めます。

また、人口減少や低成長といった経済構造の変化から地域社会の活力の低下が危惧されている中、地域社会において大学はその人材育成能力や知的資源を地域課題の解決に貢献する役割を期待されています。本学も高度な研究能力を有し有為な人材を育成する教育研究機関として、「地域における知の拠点」ともいえる存在となることを目指し、積極的に地域社会との連携を図るための体制を整備いたします。

これからの5年間を本学では上記の実践のための内部改革と整備期間と考え、「教育」・「研究」・「学生支援」・「国際交流」・「地域連携」・「学生受入」の6つの重点項目についての第2次中期計画を編成いたしました。いずれの項目においても全教職員がこれまで以上に高い理想と意識を持ち計画を実行してまいります。

神戸国際大学

学長 辻 正次



「行ける学校から行きたい学校へ」

～神戸国際大学附属高等学校中期計画の策定にあたって～

本校も、来る2023年度で創立60周年を迎えようとしています。しかし、残念ながら私学として安定した状態と呼ぶには少しかけ離れたところにあるかもしれません。まだまだ成すべきことが山積しています。校舎設備は老朽化しており、こちらも早く手を打たねばなりません。他の私学がどんどん男女共学化していく中で、本校はまだ一部であり、それも懸案事項として早急に取り組む必要性があります。カリキュラムにしても、本当に本校に通っている生徒にとって満足のいくものなのか、検証の余地があるように思われます。

何よりも大事なことは、本校が生徒一人ひとりにとって、「行きたい学校」であるかという点にあると思われまます。幸い、硬式野球部・柔道部・ハンドボール部等の活躍により、スポーツでは全国に名を馳せるようになって来ました。そのような部活動の選手にとってはアスリートコースの在る本校は正に「行きたい学校」となっているようです。しかし他のコースでは、「行きたい学校」というよりも「行ける学校」というイメージの方が大きいのは、厳然たる事実のようです。少子化により、本校の近隣地区だけで10年後には男女併せて2千名以上の児童が減少する見込みです。

そのような将来を見据え、向後5年間を目途に「行きたい学校」になるよう確実に変貌を遂げなければなりません。「行きたい学校」という着地点に向け、日々研鑽を積んでいく覚悟を全教職員と共有する所存です。

神戸国際大学附属高等学校

校長 杉之内 裕



1：組織・運営

経営基盤の強化を図り、建学の精神に則った法人の運営と設置校の発展を目指します。

重点項目

- 1：経営基盤の強化
- 2：組織、人事及び制度全般の改善・効率化とDX化推進
- 3：職員の能力開発
- 4：危機管理体制の強化

1：経営基盤の強化

法人の持続的発展を実現するため、ガバナンスの推進とマネジメント改革を行うことによって、激変する社会や外部環境に対応する経営基盤の強化を目指します。

行動目標

- (1) ガバナンスコードの周知
- (2) マネジメント改革の推進

2：組織、人事及び制度全般の改善・効率化とDX化推進

中期的な課題解決に向けた組織、人事及び制度全般の改善・効率化により職員の業務の効率化・DX化を図り、その結果を学生や生徒の満足度の向上につなげます。

行動目標

- (1) 将来を見据えた組織と人事計画
- (2) 業務の量的格差の平準化、滞留や質の劣化軽減

3：職員の能力開発

職員の能力開発の強化を図り、教育支援や管理運営を主体的に担う職員の育成を図るため、SD活動を強化・推進します。

行動目標

- (1) 研修制度や自己研鑽制度の充実
- (2) 職員ポートフォリオの構築
- (3) メディカルサポート体制の充実

4：危機管理体制の強化

さまざまな災害時に学生や生徒のいのちを守る体制作りを目指します。

行動目標

- (1) 危機管理マニュアルの整備
- (2) 危機管理意識の啓発

2：財務計画

経費節減施策の実施や補助金や寄附金等の外部資金の獲得の推進により教育機関としてふさわしい安定的な経営基盤を確立します。

重点項目

- 1：財務構造再構築による財政基盤の強化
- 2：施設設備計画と連動した資金計画の策定・実行
- 3：各種補助金等外部資金の獲得

1：財務構造再構築による財政基盤の強化

学院の持続的発展を可能とする財務体質を構築します。

行動目標

- (1) 事業活動収入の安定的な増加施策
- (2) 事業活動支出の効果的な削減施策
- (3) 経常収支差額比率を指標とした予算編成

2：施設設備計画と連動した資金計画の策定・実行

施設設備の建替・修繕計画に対応した資金計画を策定し、2022年度予算から盛り込みます。

行動目標

- (1) 事業活動収入の安定的な増加施策
- (2) 事業活動支出の効果的な削減施策
- (3) 経常収支差額比率を指標とした予算編成



3：各種補助金等外部資金の獲得

経常費補助金を始め、教育改革に向けた取り組みを行い、補助金等外部資金の獲得に努めます。

行動目標

- (1) 特別補助項目に合わせた施策の実施
- (2) 大学改革推進事業補助金の獲得
- (3) 研究装置、研究設備及び教育基盤設備の整備に係る補助金の獲得

3：施設設備計画

学生・生徒本位の施設設備の充実を図り、魅力あるキャンパスをつくれます。

重点項目

1：キャンパスの整備・有効活用・再整備

2：情報環境の整備・拡充

1：キャンパスの整備・有効活用・再整備

財政状況を踏まえた上で施設設備の維持管理と教育研究活動に必要な施設・設備の整備を実施し、持続可能なキャンパスの実現に努めます。

行動目標

- (1) 経年劣化、老朽化する施設設備の利用状況の検証
- (2) 教育環境の計画的な整備・改修・修理の実施

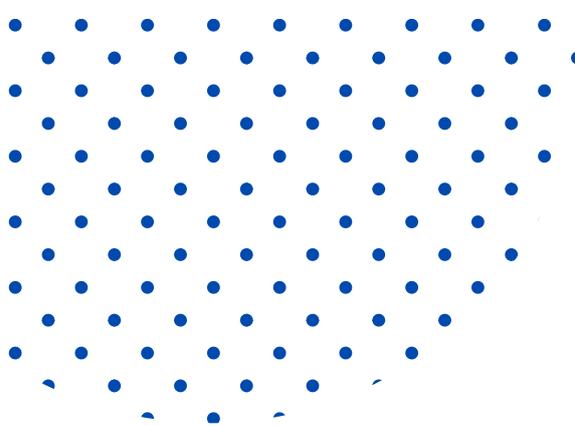
2：情報環境の整備・拡充

高度化する教育・研究活動に対応し、業務の効率化、情報化を推進します。

行動目標

- (1) 情報ネットワークの通信速度の高速化
- (2) セキュリティ体制の強化





神戸国際大学

第2次中期計画

4：教育

社会やビジネスで「生き抜く力」を持った学生を輩出するため
学生に寄り添う教育を実践します。

重点項目

- 1：誰一人取り残さない教育を実現
- 2：主体的、意欲的に学修に取り組む力を育成
- 3：学生一人ひとりの学修状況を全教員で共有
- 4：質の高い講義の実践
- 5：一貫したキャリア教育体制を整備

1：誰一人取り残さない教育を実現

学修の習熟度や学習意欲などが異なることから、学生個々の能力や学修目的も多様化する中で、一人ひとりの学生が成長を感じられるような学修体制を構築します。また、講義でのICTの活用や、IR情報を全教職員が共有するフォロー体制により、理解不足による学習意欲の低下を未然に防ぎます。

行動目標

- (1) ICTを活用した授業のDXを推進
- (2) 学生の多様化に応じた学修体制を構築
- (3) 学習状況に応じたフォロー体制を整備
- (4) 初年次教育を強化

2：主体的、意欲的に学修に取り組む力を育成

学生自身が、何を学び、何を身につけたかを自ら確認しながら、さらなる学修に取り組める仕組みを取り入れます。学修意欲を高めるような講義や教育内容、さらに課題解決能力の育成に重きをおいた実践型の授業を行ないます。

行動目標

- (1) アクティブラーニングの本格導入
- (2) PBL（課題解決型学習）を充実
- (3) IR情報を用いた学びの自己評価とさらなる目標設定



3：学生一人ひとりの学修状況を全教職員で共有

大学全体での学生に寄り添う教育の実現のため、学生カルテなどを通して全教職員が学生一人ひとりの学修状況の詳細まで共有します。

行動目標

- (1) 学生カルテによる情報共有
- (2) きめ細かい学生面談の実施
- (3) ゼミナールでの丁寧な指導

4：質の高い講義の実践

学生が高度な専門的知識や技能を習得できるような専門教育の質を高めます。そのため、他大学で実践事例をFD活動で取り上げ、教員相互の授業参観を定期的に行なうことで、指導方法を研鑽していきます。学生による授業評価アンケートを統計的に分析・評価を行い、講義の改善に活かします。また、リハビリテーション学部では、学部を挙げて最終目標である理学療法士国家試験全員合格を目指した教育を行います。

行動目標

- (1) 教育成果の可視化と公開
- (2) FD活動の積極的推進
- (3) 国家試験合格率の向上（リハビリテーション学部）

5：一貫したキャリア教育体制の整備

トータルキャリアデザインセンターの設置により、入学時から卒業まで4年間一貫したキャリア教育を実践します。そして、学生が希望する企業や人気が高い企業等への就職に向けた取り組みをさらに強化します。

行動目標

- (1) 初年次からキャリア教育を強化
- (2) キャリア教育成果の可視化
- (3) 就職内定率向上
- (4) 留学生国内就職者数の増加
- (5) 各種資格取得率の向上

5：研究

「良い研究の上に良い教育が生まれる」を信念とし、本学における教育活動や地域貢献の礎となる研究を目指します。

重点項目

1：研究活動支援体制の構築

2：研究力の底上げ

3：教育と研究のバランス確保

4：大学院経済学研究科修士課程設置の検討

1：研究活動支援体制の構築

多様で独創的な研究を継続的・発展的に取り組める環境を整備します。併せて、競争的資金の獲得に向けた学内制度の充実を図ります。

行動目標

(1) 学術情報基盤の強化

(2) 研究活動における申請・進捗管理の体制整備

(3) 科研費申請率と採択率の向上

2：研究力の底上げ

教員の研究成果を可視化、発信する場の創出等を通じて、大学全体の研究・発表のレベルを高めます。また、研究倫理遵守の徹底のために規定や体制を整備し、公正な研究活動の促進にも力を注ぎます。

行動目標

(1) 研究に関するインセンティブ制度の導入

(2) 公正な研究活動の促進

(3) 優秀な若手教員の採用

3：教育と研究のバランス確保

教育と研究を幅広い視点で捉え直し、総合的な知の領域を拡大する環境を整えます。また、学生をアシスタントとして登用し研究活動等に携わらせることで研究を通しての学びの機会を提供します。

行動目標

(1) 多様な研究・教育の業績評価方法の構築

(2) 実務家教員の採用

(3) SA（スチューデントアシスタント）・RA（リサーチアシスタント）制度の拡充

4：大学院経済学研究科修士課程設置の検討

研究力の基礎となる大学院の設置を検討し、研究と教育の相乗効果を高めます。



6：学生支援

キャンパスが人と人をつなぐ場であり、学生一人ひとりの心のよりどころであるための環境づくりと学生サポートを徹底します。

重点項目

1：学生満足度の向上

2：学生の居場所づくり

3：大学への帰属意識の定着

1：学生満足度の向上

学生満足度調査を定期的実施し、学生サポートの面でのニーズを常に把握し、それに応える対応を行います。特に、入学直後の初年次生には、キャンパスライフのすべての面でのフォローアップに、教職員一体となって取り組みます。

行動目標

- (1) 学生満足度調査結果に基づいた諸施策の実行
- (2) 初年次学生へのフォロー体制の整備

2：学生の居場所づくり

保健センターによる学生生活におけるメンタルケアカウンセリングをはじめ、学生のキャンパスライフにおける様々な悩みに各部署が親身になって対応します。

行動目標

- (1) 各種カウンセリング体制の充実
- (2) チャペル・キリスト教センターの活用



3：大学への帰属意識の定着

大学の一体感を醸し出す多様なイベントを工夫し、開催頻度や内容を充実します。イベントの参加により、大学への帰属意識が定着します。また、保護者会・後援会・同窓会等の関係団体との連携を深め、共同での活動を活発化させます。同窓会会員による講演会や講義を通じて先輩に学ぶと共に、自己への励みなるようにします。

行動目標

- (1) 大学祭・七夕祭等の既存行事の充実
- (2) 一体感創出イベントの企画
- (3) クラブ・サークル活動の活発化
- (4) 保護者会・後援会・同窓会との連携強化
- (5) ホームカミングイベントの充実

7：国際交流

大学の名前にふさわしい国際性が豊かな学生を育成します。それと同時に、グローバル企業や大学院等で活躍できる日本語能力と専門知識・スキルを合わせ持つ留学生を育成します。

重点項目

- | | |
|------------------|--------------------|
| 1：日本人学生の留学促進 | 2：充実した留学生サポート体制の整備 |
| 3：海外提携校との共同研究の推進 | 4：時代に対応した新規事業の立ち上げ |

1：日本人学生の留学促進

Afterコロナでの渡航型留学再開に備え、派遣体制を整えます。また、コロナ禍で実施したオンライン留学プログラム等のヴァーチャルなイベント類も、質と内容をより高め学生に提供します。

行動目標

- (1) 海外協定大学との学術・交流協定
- (2) 海外研修プログラムの充実
- (3) オンライン留学プログラムの充実

2：充実した留学生サポート体制の整備

留学生の日本語能力では、入学後早期に日本語能力N2レベル、また在学中にN1レベル到達との目的を定め、底上げを図ります。また、進学・就職など留学生の希望進路に応じて、より充実したサポート体制を整備します。

行動目標

- (1) 在学留学生の日本語能力向上
- (2) 大学院進学・就職サポートの充実
- (3) 留学生満足度の向上

3：海外提携校との共同研究の推進

少子高齢化、人口減少、脱炭素等の課題は日本だけの課題ではなく、いまや中国や東南アジア全体に生じている。日本はこれらの課題の先進国である。本学がイニシアティブを取り、これらの課題に対してどのように対応するか、日本の経験を活かす方策を海外提携校と連携して研究する。これに関して、本学で国際シンポジウムを開催する。

行動目標

- (1) 海外提携校を中心に研究ネットワークの構築
- (2) 本学での国際コンファレンスの開催
- (3) 共同研究の成果物の公刊

4：時代に対応した新規事業の立ち上げ

特定技能研究生が経済社会の隅々で必要とされている現在、多くの優秀な人材を海外で求め、日本語に加えて必要な専門技能の資格を取得させ、各種の産業に送り出す仕組みが必要な段階に来ている。例えば、介護福祉士人材育成プログラム等、国際別科での日本語教育と専門研修を組み合わせる社会貢献事業を開発し展開します。

行動目標

- (1) 特定技能研修生に関する海外協定校との交流の強化
- (2) 地域での産官学協働体制の構築
- (3) 新規事業での国際別科の役割の研究と充実

8：地域連携

「地域における知の拠点」を目標に掲げる本学は、有する知的資源を最大限に活用して、真に地域に必要とされる大学を目指します。本学の特色やこれまでの蓄積を活かし、積極的に地域との連携し、地域の課題解決に一層取り組みます。

重点項目

- 1：地域での自治体や企業との連携推進
- 2：学生による地域交流の推進
- 3：リカレント教育体制の整備

1：地域での自治体や企業との連携推進

地域における活性化や課題の解決に対して、本学は地域の各種団体と連携して、教員の専門分野を活用して取り組みます。

行動目標

- (1) 地域連携を包括的に推進する組織の構築
- (2) 教員の地域貢献活動への認識強化
- (3) 地域貢献活動家による講義

2：学生による地域交流の推進

学生が社会を「生き抜く力」として必要な「課題探索力」「発信力」「協働力」を育む機会として、地域連携を実践します。

行動目標

- (1) 学生による提案型地域連携の立ち上げ
- (2) 本学の国際化を活かした地域交流の実施
- (3) リハビリテーション学部と地域の交流強化
- (4) 六甲アイランド内各種団体との共同行事実施

3：リカレント教育体制の整備

既にビジネスの世界で活躍する人へのキャリアアップに向けた学び、定年後のセカンドライフにおける学びの充実等、学生年代といわれる若年層以外にも開かれた大学であることを目指します。

行動目標

- (1) 多世代向け課外講座の実施
- (2) 学外活動拠点を活かした住民向け講座の実施
- (3) フレンドシップ会員との連携強化



9：学生受入

本学のアドミッション・ポリシーに基づき、本学で学びたいとの意欲のある人材を国籍、年齢、性別を問わず幅広く受け入れます。そのために、多角的な視点からの選抜制度を開発します。

重点項目

- 1：多角的視点の入試制度の整備
- 2：高大連携事業の拡大
- 3：本学の認知度向上

1：多角的視点の入試制度の整備

新たな入試制度の導入など、本学で学ぶ意思を持った人材を多様な形で受け入れるための入試制度を整備します。

行動目標

- (1) 入試制度の見直しと改善
- (2) 学修意欲の高い学生の獲得

2：高大連携事業の拡大

各高等学校に対しての出張講義やアカデミックインターンシップの実施等教育分野における連携拡大を図ります。

行動目標

- (1) アカデミックインターンシップ制度の整備
- (2) 「総合的な探求の時間」における連携

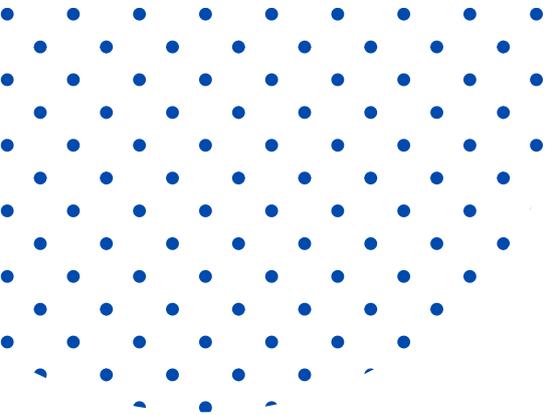
3：本学の認知度向上

大学WEBサイトの見直し等を通じて大学の教育や諸活動をこれまで以上に広範囲に広報します。また、高等学校訪問の範囲や対象校を更に拡大し多方面から学生を受け入れる体制を整備します。

行動目標

- (1) 広報活動の活発化
- (2) 高等学校訪問地域の拡大





神戸国際大学附属 高等学校

中期計画



10：神戸国際大学附属高等学校中期計画

【基本方針】

建学の精神に基づき、教職員が「一人ひとりを大切にする教育」を基本理念とし、他校にはない本校の魅力ある特色づくりの構築と、地域に愛される「行きたい学校」となることを目指します。

教育理念

建学の精神を基本理念とし、人間主義的立場を基本的視点とした全人格教育を行い、国際社会に通用する人材を育成します。

育てたい生徒像

グローバルな視野と豊かな人間性を備え、様々な変化に柔軟に対応し、創造的に行動できる生徒を育成します。

重点項目

1：カリキュラムの充実と教育の質保証
3：地域社会に開かれた学校づくりの促進

2：教育環境の整備・改善・拡充の検討及び実施

1：カリキュラムの充実と教育の質保証

行動目標

- (1)時代のニーズに合わせた普通科各コースの再編の検討
- (2)国際科教育の完成年度に向けた取り組みの推進
- (3)高大連携による教育の充実・促進
- (4)「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実

2：教育環境の整備・改善・拡充の検討及び実施

行動目標

- (1)安心・安全な教育環境の確保
- (2)学びを豊かにする学習空間の検討
- (3)校舎の耐震化の実施

3：地域社会に開かれた学校づくりの促進

行動目標

- (1)地域活動への積極的参加と連携推進
- (2)地域社会に対する貢献の促進



神戸国際大学



神戸国際大学 附属高等学校

St. Michael's Senior High School Affiliated to Kobe International University